

勝林寺報

帰入功德大宝海とけのみ名に帰してこそ
必猶入大会衆數淨土のひとの数に入れ
得至菩薩世界はちすの国にうまれては
即証真如法性身真如のさとりひらきてぞ
遊煩惱林現神通生死の園にかえりきて
入生死箇示応化まよえる人を救うなり

先月につづいて「天親菩薩」さまのみおしえを
おたよえになる一段です。

この六句を見て先ず氣のつくことは、六つの句
全部に、「入」とか「至」るとか「詫（さとる）」
とか「遊ぶ」とかいう同種のことばが使われて
いることです。

如来さまの大きな海のようなお慈悲からのお
声（功德大宝海・お名号）によりさまされて、如
來さまのいのちの中に帰り入つたならば、自然に
次の三つのことがかなえられるといわれているの
です。

一つは、「必ず大会衆のかずに入るよろこびを
うる」。大会衆というのはお淨土にある菩薩さま
と同じ位ということです。如来さまのおよび声が
聞こえて、如来さまと対面できたその一瞬に、如
來さまのいのちの中に生きかえり（往生）、如来
さまや菩薩さまと同じ位に決定するというのです。
これを「現生正定聚」とも「平生業成」ともまた
「如來と等し」とも申しています。

死んでから先の救いではありません。

二番目のよろこびは、如来さまの智恵と慈悲
おこころによつてあるところの、はすの華の中の
國お淨土へ参らせていたとき、おのずから真如法
性の身、如来さまと一つの身として成仏させてい
たゞくのです。これは罪業煩惱の縁つきた死後のさとりです。
次第三番目のよろこびは「還相」のよろこび
といわれています。お淨土からまた帰つてくるよ
ろこびです。

「煩惱の林」とか「生死の園」とよばれるこの世
に自由に還來して、思うがままに人々を救うはた
らきができるというよろこびです。

「救い」といふ「詫り」といつても、自分一人
が詫つても救われても、それだけではほんとの救
いにはなりますまい。「如來さまのいのちの中に
生きるよろこび」を、なんとしても父母にも兄弟
にも有縁の人々にも知つていただき共にみんなで
よろこび合いたいと思います。

お淨土にお参りしたらこのはたらきをしなけれ
ばなりません。

お淨土は、如來さまによつて何も彼もがささえ
られてある世界ですから、その如來さまのいのち
のなかでこのはたらきも自然に自由にできるので
す。

ここでも「お淨土」ということについて少し伺つ
てみましょう。

「淨土」とは「仏力住持」「願力莊嚴」の世
界です。如來さまのいのちと願力によつてささえ
たもたれている国です。

その淨土のありさまが説いてある一番身近かな
お經が「阿弥陀經」です。そのお經によるとお淨
土とは次のように莊嚴されていると説かれます。
まず光の国です。

すべてのものが如來さまの光によつて、それぞ
れの持ちあじの光に輝き出される世界です。

次に音の国です。
それから出会いの国です。

水のせせらぎも一々の鳥のさえずりも、それが
如來さまの無量寿・無量光（いつでもどこでも
つよんでくださる）のいのちのなかで、「すべて
のよき人々」と「ともに一つところに出会い」ま
す。「みんなでよろこび合える」世界です。

また、お淨土は自由にはたらけるよろこびがあ
ります。

ほとけ様がたにお供養申しあげることも意のま
ます。あるいはまた。仏力願力のなかで迷いの
世に迷つていの有縁の人々に、如來さまのおよび
声に気づくよう、いろいろな手立てを設けてはた
らきかける仕事が自由にできるよろこびのある世
界です。

そのようなお淨土の莊嚴された有様をお示しく
ださつてあるのがこの天親菩薩さまの「淨土論」と
いうお書物です。

そしてその「淨土論」のおところを、さらにく
わしくお伝えくださつたのが中国の曇燄大師の「
淨土論註」という本です。
次号からは七高僧のうち第三祖曇燄大師さまの
ことを「正信偈」の上で伺つてみましょう。

十二月のこよみ

中央連研講師研修会（本山）

稻木靖彦氏宅忌明・生田善七氏宅法事・出合報恩講・稻葉政夫氏宅法事

谷垣逸雄氏宅法事・順光寺法事・数森三男氏宅法事・正法寺報恩講・波谷行雄氏宅法事

六日 正法寺報恩講・稻木靖彦氏宅忌明・生田善七氏宅法事

七日 正法寺報恩講・同総講・野尻報恩講・山田清務氏宅忌明

八日 矢根報恩講・十六夜会報恩講・玉日永井均氏宅法事・永井雅一氏宅法事

九日 同・福富修氏宅法事・市場報恩講

十日 同・西山真澄氏宅法事（加古川）

十一日 同・唐川報恩講・小田松講

十二日 同・東里報恩講・同総講

十三日 小田報恩講

十四日 同・官島哲也氏宅法事・口小谷報恩講

十五日 同・鉢山報恩講

十六日 同・和田山町教委公民館研修会（神戸）

十七日 同・教務所企画室会議（神戸）

十八日 同・みのりを開く会

十九日 出石組住職「十日講」

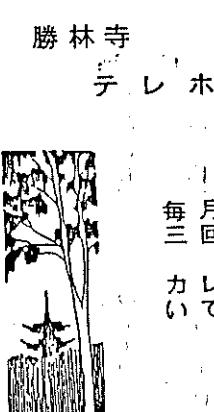
二十日 除夜会

二十一日 保谷報恩講

二十二日 同・朋運動推進委員会（神戸）

二十三日 和田山町教委公民館研修会

二十四日 教務所企画室会議（神戸）



(局出石) 580

勝林寺

テレホン

番

十一月一日

栗尾稻木登様

十一月十九日

豊岡山田弘様

